

第 1 回対象火気設備等技術基準検討部会 議事要旨

1 日時及び場所

平成26年9月11日（木）13時30分～ 主婦会館プラザエフ 3階コスモス

2 出席者

部会長	小林 恭一	東京理科大学大学院 国際火災科学研究科 教授
委員	植田 利久	慶應義塾大学工学部 機械工学科 教授
委員	大宮 喜文	東京理科大学工学部 建築学科 教授
委員	加藤 晃一	東京消防庁 予防部参事兼予防課長
委員	金村 聖志	首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 都市環境科学環・分子応用化学域 教授
委員	尾身 健二	一般社団法人 日本ガス石油機器工業会（代理）
委員	七條 勇佑	千葉市消防局 予防部指導課長
委員	田中 智	一般社団法人 日本電機工業会 家電部長
委員	松本 孝直	一般社団法人 電池工業会 次世代蓄電池担当部長
委員	山田 常圭	消防研究センター研究統括官
事務局	消防庁予防課	

3 配布資料等

<資料>

資料 1 - 1	「対象火気設備等技術基準検討部会」委員名簿
資料 1 - 2	予防行政のあり方に関する検討会開催要綱
資料 1 - 3	検討項目等について
資料 1 - 4	蓄電池設備の規制単位等の検討
資料 1 - 5	ガス厨房設備・器具の品目追加等の検討
資料 1 - 6	電磁誘導加熱式調理器（IH調理器）に係る別表適用範囲の検討

<参考資料>

参考資料 1 - 1	火気設備（器具）・電気設備（器具）に係る消防関係法令による規制
参考資料 1 - 2	対象火気設備等の位置、構造及び管理並びに対象火気器具等の取扱い

に関する条例の制定に関する基準を定める省令（平成14年総務省令第24号）（抜粋）

- 参考資料 1－3 対象火気設備等及び対象火気器具等の離隔距離に関する基準（平成14年消防庁告示第1号）（抜粋）
- 参考資料 1－4 消防長（消防署長）が火災予防上支障がないと認める構造を有するキユービクル
- 参考資料 1－5 蓄電池の構成材料等
- 参考資料 1－6 蓄電池に係る火災の状況（平成23年～平成25年）
- 参考資料 1－7 ガス設備・器具に係る関係法令
- 参考資料 1－8 電磁誘導加熱式調理器に係る関係法令

4 議事要旨

（1）開会

（2）委員紹介

（3）部会長等の選任

部会長として小林委員、副部会長として大宮委員が選任される。

（4）検討項目等について

資料 1－3（検討項目等について）に基づき、説明を行う。

特段意見等なし。

（5）検討方針について（●事務局、○委員）

資料 1－4（蓄電池設備の規制単位等の検討）に基づき、検討方針を示す。

- リチウムイオン電池については、発熱により何件か火災が発生しているが、発熱による危険性は考慮しなくてもいいのか。
- 発熱の危険性については、蓄電池の火災は年間130件程度であり、死者が出ている火災のほとんどが車のバッテリーであることから、現行の18kWhでの規制で対応出来ていると考えている。

- 過去の蓄電池の火災において、具体的に燃えたもので、容量から分類して何か特別なことが分かったとか、現状の18kWhを基準にしていることと何か合理的に説明が出来るような情報、データ解析は出来るのでしょうか。
- 蓄電池火災の件数までは拾えるが、それがどのくらいの容量があったのかは拾えない状況である。
- 今回の検証はいわゆる出火危険を念頭に置いてということだが、リチウムイオン電池は他からの火災による延焼媒体の可能性は見なくてもよいのか。
- 平成23年に消防庁危険物保安室で行われたリチウムイオン電池の燃焼実験では、大丈夫だったとの結果が出ている。
- この法律の体系の中でもって、延焼媒体危険が読めるのか検討が必要である。

資料1—5（ガス厨房設備・器具の品目追加等の検討）に基づき、検討方針を示す。

- 離隔距離の検証で、こんろ上に置かれる鍋の種類によって状況が変わってくる。
- J I Sの基準に試験用の鍋の標準化された仕様があるのでそれに基づいて検証を行っていきたい。
- 壁の仕様を不燃材料とするといっても、材質、厚み等様々なものがあるので実験する際には考慮が必要である。

資料1—6（電磁誘導加熱式調理器に係る別表適用範囲の検討）に基づき、検討方針を示す。

- すでに流通している5.8kWの製品は、現行の4.8kWの基準で問題はなかったか。
- すでに流通している5.8kWの製品は、その製品ごとに消防庁告示に基づき確認をしており、離隔距離に関して特に大きな問題はない。
- 今後、5.8kW以上の製品が出回る動向はないか。
- 電気関係法令や基準が変わらない限り、5.8kWを超える製品が今後出てくることはあまり考えられない。特殊な製品については、消防庁が定める告示によって離隔距離を定めて行きたい。
- I Hの5.8kWとガスの14kWでは、ガスの方が厳しいと思われるので、最終的に片方が有利になっているとか、不利になっているとかないような形の考慮が必要である。

(6) その他

- 今後の予定については、今検討部会での意見等を踏まえ、各項目ごとに検証実験を実施し、その結果を12月ぐらいに取りまとめた上で、第2回検討部会を平成27年の1月頃を目処に開催を予定している。